

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

東日本大震災 被災者支援 2017年度 活動報告書



支援の進化と深化～一人ひとりの復興に向けて

レスキューストックヤード代表理事 栗田 暢之



まるで何事もなかったかのような真っ青な空に、まん丸の太陽から惜しみなく降り注ぐまばゆい光、それに照らされキラキラと輝く青い海。こんなにも美しい自然に包まれた震災から7年の今年度、スケルトンハウス（寺澤七ヶ浜町長命名）、正式名称「七ヶ浜みんなの家きずなハウス」をリニューアルオープンすることができました。透明すぎて、室内でも汗ばむ時もしばしばですが、連日、地元のカキ大将やおませさん、ごひいきの住民の皆様、そして「七ヶ浜を元気にしたい」と願う地元中学生やボランティア団体など、多くの方々に賑々しく通っていただいています。また、町民だけでなく、震災と原発事故により愛知県に避難した当時小学生だった高校生や、熊本地震で懸命に支援活動を続けるボランティア御一行なども訪ねられ、この大いなる自

然と暖かい地域の方々に囲まれつつ、それぞれの想いを語り合う場としても活用いただいています。そして、ここで出迎えるスタッフも、そのほとんどが地元をこよなく愛す七ヶ浜町民。ますます地元力が進化し、活動も深化した1年となりました。一方、名古屋事務局では、愛知県被災者支援センターやふくまし支援室も引き続き受託し、避難者が抱えるどうしようもない理不尽さや日々の暮らしの課題に向き合う支援を模索して参りました。こうした活動のすべては、有形無形の本当に多くの方々によるご理解とご協力の賜物であります。改めまして心より御礼申し上げます。今後も、一人ひとりの人となりの復興に向け、チャレンジを続けて参る所存です。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



輝きの循環を広げよう

レスキューストックヤード常務理事 浦野 愛



きずなハウスで、友達と楽しそうに語らう子どもたちや奥様たちの井戸端会議、ポーちゃん焼きを買いに立ち寄る常連さんなどの姿に出会うと、ホッとした気持ちになります。それは、七ヶ浜の復興を願う沢山の人の想いの詰まったこの場所が、町の皆さんの日常生活の一部になりつつあることを実感するからだと思います。今年度は「きずなネット」も立ち上がりました。町の良さを再確認し、自分たちのやりたいことを発表したり、みんなで実現していく過程はとても楽しく、

ワクワクするものでした。活動を通じて、もともと皆さんの中にあつた「生きる輝き」が少しずつ表面化し、周囲の人たちの活力をも新たに引き出しつつあります。こんな素敵な「輝きの循環」が、いまだ孤独や不安、寂しさの只中にも届くことを願い、私たちも町の一員として、引き続き皆さんと一緒に歩んで行きたいと思えます。「あなたがいてくれてよかった」と思い合える温かい心の繋がりが、きずなハウスの園庭の花々や樹木と共に育っていきますように。

七ヶ浜町の概要と震災による被害

七ヶ浜町は仙台市から 15km ほど北東に位置する半島状の町。人口は約 1.9 万人、面積は約 13.2k m²。

名前の通り、「七つの浜」に囲まれ、漁業や観光が盛んです。「菖蒲田浜^{しょうぶた}」は東北で最も古い海水浴場といわれ、家族連れをはじめサーフィンのメッカとして若者にも親しまれています。

昔ながらの漁師町のほか、仙台のベッドタウンとして新興住宅地も開発され、新旧の住民が入り混じった土地柄に。スポーツ施設やホールが充実しており、外国人避暑地だった歴史から造られた「七ヶ浜国際村」では、地元の子ども達を中心としたミュージカル劇団がつけられています。



2011年3月11日、東日本大震災で震度5強の地震後、最大12.1mの大津波が襲来。

菖蒲田浜地区を中心に沿岸の集落に被害

津波浸水面積 4.8k m² (町域面積の 36.4%)

死者 108 名、行方不明者 2 名

住家被害は全壊 674 棟、大規模半壊 237 棟、半壊 413 棟、一部損壊 2,605 棟

町内 36ヶ所の避難所にピーク時で 6,143 名の町民が避難

七ヶ浜町の復興状況

七ヶ浜町は 2017 年度、7月に菖蒲田海水浴場が本格オープンし、うみの駅と隣接して、新たに建設されたホテルやカフェを含むマリンリゾートができるなど、復興・町の賑わいづくりに向かって大きく前進しました。町内全ての応急仮設住宅は 2016 年度末に閉所され、高台住宅団地や災害公営住宅への移転が完了しましたが、生活環境の変化、新しい人間関係の構築などの課題も出てきています。以下は高台住宅団地や災害公営住宅の整備戸数と入居状況です。

【高台住宅団地(防災集団移転促進事業)】 5 箇所 194 戸整備完了

整備・再建状況[5/1 現在]

- 1 松ヶ浜西原地区：整備戸数 13
- 2 菖蒲田浜中田地区：整備戸数 30
- 3 笹山地区：整備戸数 128
- 4 吉田浜台地区：整備戸数 9
- 5 代ヶ崎浜立花地区：整備戸数 14

整備戸数計 194 (着工 189・再建 188)

※再建戸数は、住宅完成後、高台住宅団地に住所を移した戸数

【災害公営住宅(災害公営住宅整備事業)】 5 箇所 212 戸整備完了

整備・入居状況[4/30 現在]

- 1 松ヶ浜地区：整備戸数 32 (入居 29)
- 2 菖蒲田浜地区：整備戸数 100 (入居 97)
- 3 花渚浜地区：整備戸数 50 (入居 47)
- 4 吉田浜地区：整備戸数 6 (入居 6)
- 5 代ヶ崎浜地区：整備戸数 24 (入居 22)

整備戸数計 212 (入居戸数 201)

きずなハウス 2017 年度の活動

- 2017年
- 4/8 「はまのわ Book Cafe」開催
 - 6/18 「親子すまいるフェスタ」に協力
 - 7/8 「菖蒲田浜 魚釣り&昼食交流会」を開催
 - 7/21 「七ヶ浜みんなの家きずなハウス オープニングセレモニー」を開催
 - 7/29 「七ヶ浜復興感謝祭」に参加
 - 8/19 「松ヶ浜地区祭り」にボーちゃん焼き出店
 - 8/29 「宮崎仲間プロジェクト」による足湯ボランティア受け入れ①
 - 9/7 第1回「きずなネット」ミーティングを実施
 - 9/17 きずなネット活動サポート① 「きずなネットまつり」を開催
 - 9/18 「きずな食堂 in 松ヶ浜」を開催
 - 9/30 きずなネット活動サポート②
「第1回きずなハウスをみどりでいっぱいにしようプロジェクト」寄せ植え
 - 10/7 きずなネット活動サポート③ 「親子防災ワークショップ」
 - 10/15 「笹山 きずな食堂『ちゃせごの会』」を開催
きずなネット活動サポート④
「第2回きずなハウスをみどりでいっぱいにしようプロジェクト」苗木植え
 - 10/22 東北3県の市民活動団体視察① 南三陸「被災地学習・交流日帰りバスツアー」を開催
「あさひ園祭り」に協力、くじ引きブース出店
 - 11/11 きずなネット活動サポート⑤
松ヶ浜花の和「花壇作り@松ヶ浜地区避難所～Fプロジェクトとコラボ～」
きずなネット活動サポート⑥
「第3回きずなハウスをみどりでいっぱいにしようプロジェクト」畑作り
 - 11/14 第2回「きずなネット」ミーティングを実施
 - 11/16 きずなネット活動サポート⑦ ななはまっこ「ちびはまっこプレーパーク①」
 - 11/18 「菖蒲田浜 ぼっけ汁祭り」に協力、ボーちゃん焼き出店
 - 11/21, 22 「宮崎仲間プロジェクト」による足湯ボランティア受け入れ②
 - 11/23～26 きずなネット活動サポート⑧ マザーファーム「産直野菜販売」
 - 12/1 きずなネット活動サポート⑨ 七ヶ浜町ボランティア友の会「定例会」
 - 12/13 きずなネット活動サポート⑩ 松ヶ浜の和「大人カフェ&松ヶ浜フェア」
 - 12/14 きずなネット活動サポート⑪ ななはまっこ「ちびはまっこプレーパーク②」
 - 12/16, 17, 23 「子どもサンタがやって来る 2017」を実施
 - 12/17 「花淵浜 クリスマス会」に協力
「安城・七ヶ浜交流プロジェクトチーム」による『ふれあい交流サロン』受け入れ
 - 12/28 きずなネット活動サポート⑫ 向洋中学校Fプロジェクト「Fプロ活動報告会」
 - 1/17 きずなネット活動サポート⑬ おりおり「糸紡ぎワークショップ①」
- 2018年
- 1/21 きずなネット活動サポート⑭ きずな工房「ミシン教室」
 - 1/28 「代ヶ崎浜 もちつき交流会」に協力
 - 1/31 きずなネット活動サポート⑮ おりおり「糸紡ぎワークショップ②」
 - 2/6 第3回「きずなネット」ミーティングを実施

- 3/3 「きずなハウスフェスティバル」を開催
「生涯学習フェスティバル」に協力、きずなネット紹介パネルを展示
- 3/4 きずなネット活動サポート⑯ おりおり「フラッグ作りワークショップ」
- 3/10 きずなネット活動サポート⑰ はまのわ「BookCafe&写真集のお披露目会」
- 3/11 「東日本大震災七ヶ浜町追悼式」に参列
- 3/18 東北3県の市民活動団体視察②
気仙沼「被災地学習・交流日帰りバスツアー」を開催
- 3/23 きずなネット活動サポート⑱
「第4回きずなハウスをみどりていっばいにしようプロジェクト」芝張りと植樹
- 3/28, 29 七ヶ浜住民と県外避難高校生との交流会を実施
※「きずなネット活動サポート」とは、「きずなハウス」を活用するなどし、地域住民の自主的な活動を支援する取組です。

きずなハウス 定期開催の活動

- きずな喫茶 in 松ヶ浜への参加
社協各地区お茶会（毎週水曜日）への参加

名古屋事務局 2017 年度の活動

- 2017年 5/7 FOR 子ども支援～広域避難の子ども達の夢の実現を！・贈呈式
6/23 RSY 大口町倉庫、うるうるパック化作業
10/1 ふくしまくらしの相談会（岐阜）
10/12 RSY 大口町倉庫、うるうるパック化作業
11/25～26 福島復興体感ツアー
- 2018年 3/4 ふくしまくらしの相談会（三重）
3/11 東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや運営（実行委員長として）
3/28～30 高校生東北交流ツアー



うるうるパック発送作業



子ども支援基金贈呈式の様子

みんなの家きずなハウス（概要）

2017年7月21日、仮設店舗商店街「七の市」跡地に、『七ヶ浜みんなの家きずなハウス』がリニューアルオープンしました。建設にあたっては、RSYの活動にご賛同いただいた株式会社ロレックス、株式会社サークルKサンクス（現株式会社ファミリーマート）、NPO法人HOME-FOR-ALLから多大なるご寄付、ご協力を頂きました。現在、建物は町に寄贈され、町との協定のもとRSYが運営を担っています。



リニューアルオープンした「七ヶ浜みんなの家きずなハウス」

地域の活動拠点として、また、憩いの場として、子どもからご年配の方まで、毎月1,000人を超える方が利用しています。

ハウス内には、販売コーナーを常設し、豊富な種類の駄菓子や飲料等を揃えています。特に人気なのは、町の観光キャラクターを模した焼き菓子『ぼっけのポーちゃん焼き』。幅広い世代から愛されるとともに、「ブランド七ヶ浜※」にも認定されました。中には地域行事や会議のちょっとしたお土産として購入する方もいます。また、コミュニティースペースには、町内のイベント情報や店舗情報等を掲示し、温かみのある木製の手作りのテーブルやベンチを設置しています。午前中はご年配の方々や赤ちゃん連れのママたちの井戸端会議、午後からは小中学生たちの勉強や遊び場と化しています。夜は、地域のボランティア団体のミーティング会場としてもご利用頂いています。園庭には、「ファームガーデン」を整備しつつあり、色とりどりの草花や樹木が育ちつつあります。『きずなハウス顔はめパネル』はひそかな人気です。



様々な人や情報が集まる、ある日のコミュニティースペース



大人気「ぼっけのポーちゃん焼き」限定グッズを添えて

来館者からは、「ここに来てスタッフの顔をみるとほっとする」「最近会ってなかった人とここで会えた」「その時々々の旬の情報が得られる」などの声を多数頂いています。これらの声を励みに、これからも地域の皆様に愛される場所を目指していきます。

※『ブランド七ヶ浜』認定制度…七ヶ浜町の地域資源をいかした地場産品等を、町が「ブランド七ヶ浜」として認定し、情報発信することにより、七ヶ浜町の知名度向上と地場産業の振興を図るもの。



放課後や週末に子どもたちが駄菓子を買いに来ている様子

ファームガーデン（環境大臣賞・みどりのプロジェクト）

きずなハウスの園庭には、今、様々な草花や木々が植栽されています。ここには、「きずなハウスを居心地のよいみどりいっぱいのスペースにしたい！」という住民と RSY スタッフ、これに賛同して下さった多くの支援者の熱い思いがこもっています。

RSY は、きずなハウスを設計した近藤哲雄建築設計事務所と株式会社グリーン・ワイズの協力を得て、環境省主催「第12回みどり香るまちづくり企画コンテスト」に応募。見事、最高賞の『環境大臣賞』を受賞しまし



畑づくり 野菜の苗植えと種蒔き

た。これ以前も「きずなハウスをみどりでいっぱいにしよう！プロジェクト」を立ち上げ、寄せ植え教室や苗木の植栽等のワークショップを通じて、町民の皆さんと一緒に、少しずつみどりを増やしてきました。



第1回植栽ワークショップ 高木2本植樹

今回の応募にあたっては、『香って食べて元気を育む七ヶ浜ファームガーデン』と題して、単に樹木を植栽するだけでなく、子どもたちや地域の方々と、実のなる木や草花を育てて防災にも役立つ保存食を作ったり、津波避難場所の目印となるシンボルツリーを整備したりするプログラムも計画しています。副賞として、ウメやイチョウなど実のなる樹木、ルッコラやペパーミントのハーブ苗、各種宿根草など、33品種・95株もの苗木が授与されました。住民の方々と植栽し、どれも順調に育ちつつあります。

また岩間造園株式会社、大島造園土木株式会社から

のご寄付を頂き、サルスベリとヤマボウシをシンボルツリーとして植栽することができました。

「きずなハウス」の玄関脇にそびえ立ち、枝葉を広げて木陰を作り、来館者の暑さをしのいでくれます。また、子どもたちは、小鳥の巣箱を設置したい、ハンモックを吊るしたいなど次の企画を楽しみにする声も出ています。



他にも、庭園整備にあたっては、株式会社泉緑化、花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会、JA 横浜、兵庫県立淡路景観園芸学校等、沢山のご支援をいただき、みどりに関わる数々のワークショップを開催することができました。植栽後の水やりや、手入れに取り組む「グリーンサポーター」を募ったところ、「きずなネット」メンバーやワークショップに参加した住民の方々の中から約10名が手を挙げて下さいました。これからも、ガーデニングに興味のある方や土いじりが好きな方などに声をかけて、どんどん『みどりの輪』を広げていきます。そして、様々な機能を持った「きずなハウス」が、普段はみんなの憩いの場、災害時は地域の避難拠点として活用されるよう、住民の方々と一緒に育てていきたいと思いません。



寺澤七ヶ浜町長へ環境大臣賞受賞のご報告

災害公営住宅及び高台住宅団地（防災集団移転団地）移転者支援

七ヶ浜町では、2016年度末に町内全ての応急仮設住宅が閉所され、現在では町内5地区に整備された災害公営住宅212戸と高台住宅団地194戸への移転が完了しています。

移転先は町の施策により、なるべく震災前に住んでいた地区に戻れるよう配慮されています。とはいえ、ようやく終の棲家に腰を落ち着け、ほっとできた一方で、生活環境の変化や、新しい人間関係の構築、自身の高齢化などがあいまって、今後の生活への不安を感じる方も多くいました。特に高齢者世帯や単身世帯な

ど、新しい生活に慣れるまで時間のかかる方に対しては、引きこもりや生活不活発病の悪化、孤独死が心配されました。

R S Yでは、過去の災害での支援経験から、住民が自分の力で暮らしのペースを取り戻し、安心できる生活基盤を整えるためには、もうしばらくは外部から、人との関わりや地域の温かさに触れ、生きがいや役割を感じられるような見守りや場作りの支援が必要だと考えました。

七ヶ浜町被災者支援総合交付金を活用した（心の復興）支援事業

R S Yは、七ヶ浜町が復興庁の被災者支援総合交付金を活用し、支援団体等による「心の復興」の取組に対して交付する補助金により、災害公営住宅と周辺地域、高台移転団地での多世代交流やコミュニティーづくりの促進を目的に、「世代間交流を通じた地域の支え合い・生きがいの場作り」に取り組みしました。

主に、食を通じて災害公営住宅での引きこもり防止や人のつながり、役割づくりを目指した「きずな食堂」（全2回開催、128名参加）と、地区や地域全体の復興への機運を高める「交流企画」（全8回、延べ1,077名参加）を実施しました。実施にあたっては、できる限り地区の有志により企画立案や当日の運営などを主体的に進められるよう努めました。

「きずな食堂」では、ご年配の方と子どもたちが一緒になって、郷土料理作りや住民のお宅で採れた農作物をいただいて調理するなど、地区でのつながりを深めました。子どもたちが移転地区の全戸を一軒一軒訪れ、食事交流会の招待状を手渡しした「ちゃせごの会」

では、「ちゃせご」をきっかけにした戸別訪問により、日頃から家にこもりがちな高齢者の生活状況を伺う機会になったとともに、地区と子どもたちとの間に「顔見知り」の関係もでき、地域での新たな見守り体制作りのきっかけになったと思います。

「交流企画」では、町内各地区での交流を深めて頂くと共に、きずなハウスを会場に、地域を超えて出会い、楽しめるプログラムも企画しました。

参加した地区住民の方からは「来年は子どもたちにもっと喜んでもらえるように準備しとかなきゃ」、他地区の行事に参加した子どもたちからは「今度は自分たちのところでやってみたい」などの声も聞かれました。本事業を通じて、生きがいや役割作りの一助となれるよう、今後もサポートしていきます。

※「ちゃせご」…昭和30年代頃まで、宮城県内各地で行われていた行事で、小正月の時に子どもたちが福の神に扮し、近隣の家々を回って幸福をもたらし、そのお礼として餅や小銭をもらうという風習。



「ちゃせごの会」の様子



きずなハウスフェスティバル（交流企画）

地元ボランティア団体活動サポート宮城県 NPO 等の絆力を活かした震災復興支援事業

町内でボランティア活動を行ってきた団体や有志・サークルなどが、それまでは別々に活動していましたが、七ヶ浜の復興を願って建てられた「七ヶ浜 みんなの家 きずなハウス」を拠点に集まりました。

今年度は「おりおり」「きずな工房」「向洋中学校 F プロジェクト」「七ヶ浜町ボランティア友の会」「ななはまっこ」「はまのわ」「マザーファーム」「松ヶ浜花の和」8 団体が『きずなネット』として立ち上げました。他にも個人で関わりたい方の受け皿として「きずなサポーターズ」もともに活動しました。



「きずなネット」会議の様子

9 月に実施したきずなネットまつり（延べ 70 名）を皮切りに、きずなネット会議全 3 回（延べ 47 名）、親子防災ワークショップ（21 名）、被災地学習・交流日帰りバスツアー全 2 回（延べ 86 名）を行いました。各団体の活動も 1~2 回実施しており、それぞれが企画した活動のチラシを作ってきずなハウスや Facebook で広報し、地域住民の方々も交えながら活動しました。また、1 団体だけでなく例えば、フラッグ作りをするものづくりの「おりおり」とミシンが得意な「きずな工房」がコラボしたり、松ヶ浜避難所の花壇作りをする「松ヶ浜花の和」とその手伝いをする「向洋中 F プロジェクト」が昼食交流会をしたりするなど、ネットワークが活かされた活動もありました。

こうした活動のネットワーク拠点が「七ヶ浜 みんなの家 きずなハウス」にあることの強みを活かし、町民の皆さんの「何かやってみたい」という最初の一步を応援していきます。



親子防災教室。新聞紙で器づくり



被災地学習、日帰り交流バスツアー



おりおり&きずな工房コラボ企画。メッセージフラッグづくり



「松ヶ浜花の和」と「向洋中 F プロジェクト」の昼食交流会

ハーゲンダッツ&ユニー共同社会貢献活動 被災地の子どもたちにおもちゃをプレゼントしよう

2018年4月25日にユニー株式会社とハーゲンダッツジャパン株式会社のドネーション企画として、宮城県気仙沼市で子ども支援の活動をしている「NPO 法人浜わらす」におもちゃが寄贈されました。被災した子どもたちが、町の誇りである海と共に末永く安心して育っていけるよう、『海』をキーワードにした様々なプログラムが実施されています。ハーゲンダッツのアイスクリームを1つ買うと1円が、被災地の子どもたちの支援のために寄付される仕組みで、RSYは現地をつなぐコーディネーター役を担っています。今回のドネーション企画は、熊本地震でRSYが支援活動を継続している御船町高木保育園の支援にも繋がります。

した。震災から8年目を迎え、企業からの息の長い支援は、被災者のみならず、現地で活動する支援者にも非常に心強い存在であると感じます。



NPO 法人浜わらす事務所の前で撮影

宮崎仲間プロジェクト

「宮崎仲間プロジェクト」は、宮崎県「東日本復興活動支援事業」の一環として、メディア・リテラシー市民研究フォーラムが実施しており、宮崎県内のNPOやボランティアが集い、東日本大震災の被災者支援



安城・七ヶ浜交流プロジェクトチーム

2011年、野菜不足の避難所のお年寄りにお漬物を届ける「たべさいんプロジェクト」をきっかけに、今も七ヶ浜町を愛し、何度も通い続けて下さっている安城・七ヶ浜交流PTの皆さん。これまで、農業支援や仮設店舗「七の市商店街」への支援などを経て、現在も住民の方々と交流を続けています。12月、災害公営住宅やきずなハウスで「安城・七ヶ浜 ふれあい交流サロン」を開催。クリスマスリースやお正月飾り作りのワークショップを通じて、住民の方々と交流を深めました。「元気だった?」「また会えてうれしい!」と、長年のお付き合いだ

活動に継続的に取り組んでいます。

8月と11月に七ヶ浜を訪問した際には、災害公営住宅やきずなハウスで足湯ボランティアを体験。住民の皆さんにとっても喜ばれました。住民の中には、「震災から7年経っても、日々の悩み事や自分の被災体験などを、ふと誰かに話したくなることがある。そんな時、身近な人よりも、外から訪ねてきてくれたの方が安心して心の内を吐き出しやすい」という声も聞きます。RSYが震災直後から続けてきた足湯ボランティア。この活動が、震災から7年経った今でも、遠く離れた宮崎と七ヶ浜を結ぶ架け橋になっています。

からこそ交わされる言葉や、再会を喜ぶ姿がありました。RSYは、今後も息長く、町内外をつなぐ橋渡し役を担っていきます。



東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）との連携

JCN は、578 団体が加入するネットワーク組織であり、被災 3 県に常駐スタッフを配置して現地を巡回しながら現場や支援団体の課題やニーズを県内外に発信し、様々な支援団体が今でも東日本大震災に関わるきっかけづくりを行っております。また、広域避難者支援においては、避難先で、支援団体が集まり避難者支援について考える場や団体同士がつながる場づくりを行っております。

RSY とは、当団体の世話団体として、当団体が開催する「現地会議 in 東京・大阪」に対するアドバイスのみならず、運営の協力をいただき、東日本大震災の現状を関東圏・関西圏の支援団体に広く知ってもらい、復興支援に関わるきっかけを一緒に作っていただきました。

「JCN ツアー in 東北」では、ツアー参加のみならず、参加後も視察した団体を訪問いただくなど、全国と被災地をつなぐ活動にご尽力いただきました。広域避難者支援においては、愛知県被災者支援センターや生活再建支援拠点で得られた避難者支援のノウハウやケース検討会議などの事例を JCN が開催する研修や会議において、横展開していただき、他地域における避難者支援団体とのつながりづくりや、相談スキル向上の相互研鑽に寄与いただくなど、連携を深めてきました。1 団体では限界がある復興支援や避難者支援を持続可能なものとするために、引き続き、RSY とも連携を深めて参りたいと思います。

寄稿：JCN スタッフ杉村様

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議「うるうるパック」の配布

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援 P）の助成を受けて『うるうるパック』をお届けしました。このパックは、地元社会福祉協議会を通じて職員や民生委員が、復興公営住宅等に転居した方々を戸別する際にお土産としてお渡ししており、会話のきっかけづくりやニーズ把握に役立っています。パック化作業は RSY 大口町倉庫（愛知県大口町）で行い、のべ 29 名ものボランティアが参加しました。本年度は、岩手県釜石市、大槌町、福島県浪江町へ 506 パックをお届けしました。うるうるパックを受け取った住民からは、「震災から 6 年以上経過しても、全国からこのような励ましをもらい大変有

難く感じている。この気持ちに伝えられるよう、仮設から退去するあと少しの期間を元気に過ごしていきたい。」という声が届いています。



うるうるパック発送作業の様子

東海地域の避難者支援ネットワーク

避難者の孤立を防ぎ、避難先によって受けられる支援の差を少しでもなくすため、タケダ・赤い羽根広域



岡山情報交換会の様子

避難者支援プログラム助成金を受け、東海圏の支援関係団体の緩やかなつながりづくりを継続しています。

今年度は、甲状腺検診と原発 ADR をテーマに、情報共有や意見交換する場を 2 回設けました。また、他地域の連携や活動事例を学ぶため、東海圏の支援関係者が 1 泊 2 日で京都や岡山を訪問。岡山では、中四国の 7 団体と集い、各団体の活動および中四国での連携について報告を受け、この繋がりに今後期待することを意見交換しました。東海圏の支援者同士のつながりを深め、地域を越えた新たな出会いや、次の活動について考える機会になりました。

愛知県被災者支援センター

愛知県には2018年3月現在、約360世帯920名が県外避難しています。県は11年6月からセンターを設置しており、17年度はRSYを含めた2団体が運営を務めました。

避難生活の長期化に伴い、避難者の抱える課題は多様化・深刻化しています。今年度は、これまでの個別訪問等の情報をもとに、生活困窮や孤立など、要支援世帯の絞り込みを行いました。該当世帯に対しては、市町村や専門家等と協議し、個別支援計画を立てて対応を進めています。

愛知県民主医療機関連合会と共催で「甲状腺エコー

検診&交流相談会」も開催。甲状腺学習会や、専門家に個別相談できる体制を整え、保健師やセンタースタッフが会話の中から暮らしの困りごとを聞く機会になっています。



交流相談会・甲状腺学習会の様子

高校生東北交流ツアー

東日本大震災を経験し、自分の意思ではなく愛知に避難や移住をした子どもたち。震災から7年が経ち、高校生に成長した子どもたちからは、「愛知では震災について理解してもらえず、話さなくなった」「東北の現状を知りたい」「震災を経験したからこそ、できることはないかと考えている」という声がありました。そこで、高校生たちと一緒に東北交流ツアーを企画し、3月28日～30日に七ヶ浜町と石巻市を訪れました。

1日目はきずな号で七ヶ浜を回り、2日目は石巻



旧大川小学校訪問

市旧大川小学校などを訪れ、それぞれ現地の語り部から震災当時の状況や現状を学びました。松ヶ浜地区の災害公営住宅住民との交流食事会や、花淵浜ワカメ部会にてワカメ選別体験も行いました。そして、七ヶ浜の中高生と同世代交流ワークショップを行い、震災や避難した時の状況を共有し、この間学んだこと通しての感想を語り合いました。それぞれの違いを共有しつつ、自分の故郷や震災と向き合い、できることを考える機会になりました。



同世代交流ワークショップ



ワカメ選別体験

RSYふくしま支援室

福島県から岐阜県・三重県に避難されている方々への支援を目的に、2016年度から「ふくしま支援室」が開設されました。

主な活動は、①相談専用窓口の開設、②交流、相談会の開催、③戸別訪問の実施、④福島ツアーの開催などです。

相談窓口には2017年度28件の連絡があり、主には甲状腺検診についての問合せで、健康に対する不安が多くみられました。



福島交流相談会の様子

交流相談会は岐阜と三重で開催し、合計8世帯21名の避難者が参加されました。

戸別訪問は、岐阜・三重の9世帯のお宅に伺い、一人ひとりの要望や生活状況を尋ね、孤立化防止と寄添った支援を目指しました。

「ふるさと福島体感ツアー」では16世帯41名の参加があり、浜通りの視察と福島市で支援者や帰還者との交流会を行い、今後の生活を考える機会にしてみました。



福島バスツアーの車中の様子

東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや

名古屋市社会福祉協議会が主体となり、RSYや各区の災害ボランティアネットワークで構成する「なごや防災ボラネット」が協力運営している「東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや」も7年目を迎えました。市内に避難されている方の中にも最終生活をどこで過ごすか？まだまだ決まらない方も少なくない一方で、一人暮らしや高齢者の方の生活も7年すると健康問題や生活課題が発生し、福祉関係機関に繋ぐ相談も多くなるなど、個々のケースの対応が難しい状況の方もいます。

「お茶っこサロン」は、2017年度は3回の開催となりましたが、ボランティアさんの呼びかけで始まった自主運営の「革工芸の会」が始まり、一旦途切れた「寺子屋」も該当する子どもさんたちの希望者が増え

てきて復活。学習支援を名古屋工業大学：ボランティア部の皆さんが引き受けてくれています。

設立時からのモットー「寄り添い、ゆっくと、でも全力で応援します」を大切に、今後も引き続きニーズに合わせた支援を展開していきます。



ボランティアさんが自主運営する「革工芸の会」の様子

**七ヶ浜町長 寺澤 薫**

東日本大震災から8年目を迎え、10年間の七ヶ浜町復興期間終了まで残り3年を切りました。

レスキューストックヤードの皆様には、震災直後から多大なご支援、ご協力を賜り、おかげさまで本町の復興事業はハード整備が大詰めを迎え、町の賑わいづくり、地域コミュニティの創出といった、町民の「心の復興」に向けた取り組みへとステージが移っております。昨年7月にオープンした「きずなハウス」

は、初日から多くの方が詰めかけ、今では、人となりのつながりと、町に賑わいを生み出す拠点として大きな役割を果たしていただいております。

復興への道のりはこれからも続きますが、これまでのご支援、ご協力に改めて感謝申し上げますとともに、「真の復興」と復興後の未来を見据えたまちづくりに取り組んでまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

**七ヶ浜町社会福祉協議会会長 阿部 和夫**

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤードの皆さまには、七年間の長きに亘り七ヶ浜町での支援活動をして頂いております事、深く感謝申し上げます。

RSYさんと社会福祉協議会が取り組んでいます「被災地区サロン活動」も地域に定着してきております。交流が深まる事はもとより、お互いが気に掛け合う関係性が出来ております。

また、昨年七月開所しました「七ヶ浜みんなの家きずなハウス」には老若男女が集い、笑い声が常に絶えない場所になっています。本当に有難うございます。

温かなご支援を頂きました皆さまに改めて感謝を申し上げ、RSYの皆さまの益々のご清栄をご祈念いたします。

**七ヶ浜町民（防災集団移転） 渡辺 努**

RSYの皆様には長きわたり、たくさんの支援協力をいただき感謝申し上げます。

高台移転で菖蒲田浜中田地区に家族4人で生活しています。中田は現在29世帯ありますが、前からの菖蒲田の方々なので、みんな知り合いです。年2回春と秋に2班に別れて広場の除草作業を実施し、この事が唯一のみんなとのコミュニケーションの場になり、男性の参加者が多く非常に協力的で今後頼りになり、心強く

思います。

東日本大震災から7年になりますが、菖蒲田浜は町内で一番大きな震災被害(地震、津波)で人口が大幅減少になっています。当時の事を言葉で表現することが非常にむずかしい感じがします。

毎月お茶っこ会を開催して約30名の方が参加し、RSYさんの協力もあり、お互い元気をもらい楽しみにしています。今後共よろしくお願い致します。

**花淵浜地区災害公営住宅在住 佐藤直美**

あの日幼稚園年中だった長女が中学1年生、2歳だった次女が4年生、9ヶ月だった長男が2年生、そして震災後に生まれた次男が1年生になりました。震災の話をするとう覚えているのは長女のみ。その長女もやはりまだ5歳だったので断片的にしか記憶がないとの事。覚えていないのは当然ですので子供達が大人になった時に震災の事をきちんと自分の子供達に伝えられる様、これからも家族で震災について話し合っていきたい

と7年が経ち改めて感じております。そして、RSYの皆様には仮設住宅に住んでいた頃から本当にお世話になりました。花淵浜町営住宅に入居した後もクリスマス交流会や子供サンタ、長女、次女が入団しているNaNa5931の名古屋での公演等、今でも色々な場面で沢山サポートをして頂いております。本当にありがとうございます。今後も七ヶ浜をあたたく見守って頂ければと思います。宜しくお願い致します！



高校生東北交流ツアーメンバー 飯沼菜緒

私はレスキューストックヤードの森本さんから七ヶ浜に行く企画の提案をいただいて、行って見たいという思いと行っても大丈夫なのかという不安な気持ちがありました。私たちの希望や案を取り入れてくれたり、たくさんサポートしてくださったおかげで、多くの事を学んだ有意義な3日間でした。実

際に被災地へ足を運んだことで、被災地の現状と真実を知り、衝撃的な事もありました。目で見、耳で聴いて、心で感じて、貴重な体験をすることができました。いろんな方とお話をし、楽しい思い出もでき、この3日間のことは忘れません。いつかまた訪れたいと思います。



きずなFプロジェクト 伊藤葵亜梨

私たちきずなFプロジェクトは、向洋中FプロジェクトOBOGで発足した団体です。東日本大震災から7年経って復興に少しずつ近づいて来ていると思います。その中で、私たちきずなFプロジェクトは、七ヶ浜をフィールドワーク、津波到達地点の看板の改善、紙芝居を作って幼稚園児への語り部活動をやっていきたくと思っています。私たちきずなFプ

ロジェクトは、きずなネットの皆さんと協力している。いろいろな活動に参加し、たくさんの方々にきずなFプロジェクトを知ってもらえるように頑張りたいと思います。そして、これからも「きずなハウス」を拠点として大好きな七ヶ浜のために、これからも一生懸命頑張っていきたいと思っています。



きずなネット（マザーふぁーむ） 佐藤清子

私たちは、菖蒲田浜の畑をお借りして無農薬野菜作りに取り組んでいます。その畑は、多くのボランティアさんが瓦礫拾い等をして整地してくれた農地です。7年過ぎた今でも七ヶ浜町に心を寄せ、来町しては一緒に種を蒔き、草取り等をしていただき感謝しています。「3月11日は七ヶ浜で」と言うボランティアさんもいて皆さんの集合場所にもなっています。

RSYの皆様には、いろいろなイベントを企画してもらい、私も一緒に参加させていただきました。今後「七ヶ浜みんなの家きずなハウス」をきずなネットのみんなで、「憩いの場」にしていけたらいいなと思っています。



きずなハウス利用者 工藤真理子・慎子

RSYの皆様には、震災直後より、大変お世話になっております。

当時まだ幼かった娘も、いつもやさしく声をかけていただき、楽しく遊んでいただいたことを今でも思い出します。

昨年夏には、皆が集うのにふさわしい、明るく斬新なデザインの、きずなハウスが完成しました。県外出身の私た

ちは、七ヶ浜を身近に感じ、地域の方々と一緒にできるイベントを、いつも楽しみにしています。きずなハウスの周りを緑豊かにする植栽イベントにも参加させていただきました。自然を身近に感じることでできるきずなハウスになっていくことを楽しみにしています。これからも親子共々よろしくお願いいたします。



きずなハウス利用者 佐々木海翔

ぼくは、東日本大震災の時5歳ぐらいでした。今でもその時の状況を覚えています。それから7年がたち、今では、もう中学1年生13歳です。ですが、今でも地震はトラウマで、怖いんです。

きずなハウスはとてもいいところです。スタッフの方々も優しく接してくれて、面白いです。なので、自然と笑顔になります。相談にもものっ

てくれます。勉強も教えてくれます。ぜひきずなハウスに来てください!!ぼくも将来高校生ぐらいになったら、きずなハウスでアルバイトをしたいと思っています。4年生ぐらいの時にこの「きずなハウス」を知り、そこから毎週のように友達と遊びに来ていました。たくさんお世話をしてもらったので、今度はぼくがスタッフさんの役に立てるようにならなりたいです。



近藤哲雄建築設計事務所 近藤哲雄

「七ヶ浜みんなの家きずなハウス」がオープンしてもうすぐ1年になろうとしています。学校帰り子どもたちの遊び場として、それから町みんなの交流の場として、楽しく使っているのを大変うれしく思います。昨年は「みどり香るまちづくり企画コンテスト」で最高賞となる環境大臣賞を受賞することができ、たくさん

の樹木や草花を提供していただきました。町のみなさんとの数回のワークショップを経て、徐々に木々は根付き、季節ごとに新緑やかわいらしい花などを見せ始めています。未来に向けて、これからもより良い場所になるよう微力ながら一緒に見守っていきなりたいと思います。



株式会社グリーンワイズ 代表取締役 田丸雄一

2016年3月、建築家の近藤哲雄さんから届いた一通のメールが、このプロジェクトに私たちグリーン・ワイズが関わるきっかけでした。当時、七ヶ浜町生涯学習センターの一隅にあった部屋を訪ねると、レスキューストックヤード(RSY)の皆さんが、温かい眼差しで学校帰りにやってくる子供たちと楽しそうに話している姿が今も目に焼き付いています。

このように、震災直後から子供たちをはじめ地域住民のためにひたすら尽力してきたRSYスタッフの熱い想いが、今日の「きずなハウス」へ結晶化したのだと感じます。これから先も、この想いが訪れる人々の心へ共感の種として根付き、やがてそれぞれの心に美しい花を咲かせ続けていくことでしょう。



株式会社ファミリーマート CSR・総務部 CSR推進グループ 恒松秀紀

私自身、震災の様子はテレビや新聞などの報道からしか見たことがありませんでした。今回初めて被災地を訪れた中で、当時の被害の大きさを目の当りにし、改めて日本全体でサポートする必要があると強く感じました。先日「きずなハウス」を訪問し、現在の活動の様子を伺い、地域の小学生・みなさまに愛されていることが実感できました。また名物の「ポーちゃん」焼きの美味しさに驚き、弊社の店舗でも販売できないかと思ったほどです。そ

の後、七ヶ浜役場に訪問し、寺澤町長と面談する機会を設けていただき、復興が道半ばという話を伺うことができました。

ファミリーマートは今後とも皆様の支援が継続できるよう協力してまいります。みなさまに再会できる日を楽しみにしています。

P. S. 看板はもう少し目立つようにした方が良いと思いました。



ユニー株式会社 顧問 百瀬則子

七ヶ浜町との出会いは、6年前のことです。2012年の夏、東日本大地震被災地の子ども達のために、ユニーの取引先の飲料と日用品のメーカー10社が、「お客様が商品1点お買い上げ毎に、メーカーとユニーが1円寄付します」というドネーション企画を行いました。その寄付金で仙台市内の小学校に、プラスバンドの楽器を贈呈した帰りに、七ヶ浜に立ち寄ったのです。

ここではRSYの若者達が、被災した子ども達やお年寄りに寄り添って、支援活動をやっていました。それを見て、何か手伝える事はないかと思い、ドネーションで保育園や小学校に絵本や楽器、玩具を届けました。そして、グループ会社だったサークルKサンクス（現ファミリーマート）の店頭募金で、きずな号（子ども達のためのサロンバス）やきずなハウスの資金支援をしました。

これらの活動は、「お客様が商品を購入すること

で、メーカーは購入された個数分寄付することで、ユニーはそれをRSYの支援活動につなげることで、七ヶ浜の皆さんときずなを作る」というものでした。こうした「誰かのために役立ちたい」と、人や企業の気持ちが繋がる瞬間に立ち会えた私は、とても幸せでした。

RSYは、被災者を支援するだけではなく、遠くで被災地を思いやっている人達の気持ちも届けてくれました。こうした小売業が、消費者と生産者を結び、社会に貢献することを「エシカルなお買い物」と言います。

そして、これは今世界中で次世代のために取り組んでいる、SDGsの12「つくる責任つかう責任」そのものです。

私はこの春、ユニーを卒業しましたが、今後ともユニー、ファミリーマートがRSYを応援し続けることを期待しています。



ハーゲンダッツジャパン株式会社 名古屋支店長 伊倉正雄

※東日本大震災と熊本地震で被災した子どもたちを対象に玩具の寄付を頂き、贈呈式は熊本地震の被災地の御船町で行われました。

この度、ユニー株式会社様との被災地支援企画の贈呈式のために、熊本県御船町 高木保育園に訪問させていただきました。高木保育園では、まさに民営のスタートに花を添えさせていただける事ができまして感無量です。中でも、園児からの歌のプレゼントや記念の手作りメダルなども頂きまして、思わず目元が潤んだり、笑みがあふれてきました。その後、町おこしとして力を入れている恐竜博物館や、昨年寄贈した施設の責任者にお話を伺ったり、仮設住宅の視察と住宅地のリーダーの方からのお話

を聞きながら、復興までの遠い道のりを実感しました。最後に熊本城も見学したところ、熊本城の被災はTVの報道以上に酷く、何から手をつけたらいいのか判らないような印象を受けましたが、着実に復興に向けて動いているように思えました。

RSYの活動は地道で、思ったよりも地味な活動だと思えますが、着実に被災者の心のよりどころになっている事を痛感いたしました。

今後とも被災地のためにご活躍される事を陰ながら応援させていただきます



特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター/ コミュニティ・ワークス 青木ユカリ

私は、宮城県内で起きた過去の災害による被災地での支援活動を通じて、レスキューストックヤードの存在を知り、そこからお付き合いがはじまりました。

今年で10年になりますが「岩手・宮城内陸地震」の際には、被災した現地のみなさんのために、状況に応じ安心につながる場をつくり、情報提供をしてくださったことは今でも忘れられません。

また、「東日本大震災」では七ヶ浜町で支援活動を始められ、去年は新しい拠点「みんなの家 きずなハウス」を開設されました。子どもから大人まで老若男女、みんなの笑顔と元気な声で溢れています。ここはこれからますます地域にとって大事な場となっていくことでしょう。私も応援団の一人としてエールを送り続けていきます。

2017年度

七ヶ浜スタッフ



7年ぶりに菖蒲田浜海水浴場で海開きが始まりました。

「七ヶ浜 みんなの家 きずなハウス」がつむぐ人と人との絆

何事もなかったかのようにきらきらと碧く輝く海を見下ろす町の中心部に「七ヶ浜 みんなの家 きずなハウス」は誕生した。この建設にあたっては、サークルKサンクス（現ファミリーマート）による東北の子どもたちに幸せな笑顔を贈る店頭募金の趣旨に賛同した無数の人々の善意と、震災で失った「場」の再生を願った日本有数の建築家や賛同した若き建築家らによる「みんなの家ネットワーク」、その活動に賛同し寄付をしたロレックスとの協働により実現した。さらに、それを支えた町内外の市民・ボランティア・NPO・企業等、そして七ヶ浜町の理解と協力によって成し得ることができた。

東日本大震災でどれほど多くの涙が流されたかは計り知れない。今でも涙があふれることはある。これからも涙をこらえられない時もあるだろう。しかし、その涙を明日への生きる力につむいでいこう。この場所が、ここに生きる子どもからお年寄り、そして町を訪れる人々みんなの家となり、大いに語らい、大いに交わり、人と人との「きずな」の交流拠点となることを願う。

2017年7月21日。今日がこの願いの記念日である。

文：レスキューストックヤード



特別協賛	ROLEX	専任設計	株式会社近藤哲雄建築設計事務所	協賛	AGC硝子建材株式会社	YKK AP株式会社	企画	認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード
寄付協力	株式会社ファミリーマート	構造設計	金田充弘 櫻井克哉		TOTO株式会社	株式会社サンゲツ		特定非営利活動法人 HOME-FOR-ALL
		設備設計	清野新		大光電機株式会社	トーソー株式会社		
		外構設計	株式会社グリーン・ワイズ		オスモ&エアール株式会社	SHIBAURA HOUSE		
		施工	株式会社シェルター		株式会社テツヤ・ジャパン	伊東葉花 千世 (欄不同)		七ヶ浜町

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 東日本大震災 被災者支援 2017年度 活動報告書

2018年6月24日発行

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード
名古屋事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2階

tel 052-253-7550

fax 052-253-7552

e-mail info@rsy-nagoya.com

web <http://rsy-nagoya.com/>

twitter rescuestockyard

facebook rsy.nagoya

七ヶ浜みんなの家きずなハウス

〒985-0802 宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜字野山 5-9

tel 090-9020-5887

facebook rsy.kizuna



もっともっと、大きくなあれ